網張ビジターセンター ニューズレター

Amihari visitor center

Vol.110
2023.9

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori ＊ 網張の森の生き物たち ＊ amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

『トカゲ』(日向ぼっこ)の"ニホンカナヘビ"

９月に入っても夏が足踏みしているかのように気温の高い日が続きましたが、中旬を過ぎた頃から少しずつ涼しさを感じられるようになってきたある日、キャンプ場の入口でニホンカナヘビに出会いました。大きなオオイタドリの葉の上でじっとして、こちらから数メートル離れている安心感もあるのか、特に逃げる様子もなくしばし見つめ合う形になりました。石垣や側溝などの似通った場所で見かけることの多いカナヘビとトカゲは、片方を見つけるたびに「どっちだろう？」と一瞬迷ってしまいます。天敵のカラスやヘビ、イタチなどに襲われた際に尾を自切して、切れた尾に気を逸らせて逃げるのは両者で共通していますが、ツヤツヤしたトカゲとは異なり、カナヘビの鱗には光沢がなく後ろ足の指の一部が長いなどじっくり観察すると違いが見えてきます。まだ成長途中の若いカナヘビなのか全長の 2/3 を占めると言われる尾がそれ程長くなく、案の定トカゲと一瞬迷ってしまいました。それにしてもその出で立ちは小さな恐竜のようで、長い進化の過程で原始的な爬虫類から恐竜が枝分かれしたというのも頷けます。その小さな体に気の遠くなるような長い歴史が詰まっているようにも見えて、揺るぎない逞しさを感じた出会いとなりました。

What is "Nihonkanahebi"?

『本州に棲むカナヘビ』

カナヘビ科
全長：約 16～27cm
分布：北海道～九州

日本固有種。平地から低山地の藪や草地、庭先などに生息。主に昆虫やクモなどを食べる。基本的に昼行性で夜は草の上や落葉の下で休む。成体は春から夏にかけて交尾し、その際オスはメスの腹部を噛むため、交尾後のメスにはＶ字型の噛み跡が見られる。

（参考図書：「日本の両性爬虫類」他）

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

第３回　網張の四季

もりごよみ

気象庁の観測史上、前例のない暑さに見舞われた今夏ですが、網張の森は徐々に秋の気配が漂い始めています。生きものたちも、ほっと一息ついているのではないでしょうか。

9月1日　10日　20日　30日　10月1日　10日　20日　31日

虫の音

ミンミンゼミ　アブラゼミ　エンマコオロギ（コロコロリー）　カンタン（ルールールー）　ヒナバッタ（シュルシュルシュル…）

ツクツクボウシ　ヤブキリ（ジィー）　ヒガシキリギリス（ギィー、チョン）　ムツセモンササキリモドキ（ジッジッジッ）

確認

アサギマダラ　ミドリヒョウモン　クロヒカゲ　ベニシジミ　モンキチョウ　ルリタテハやエルタテハ（越冬するチョウたち）

クスサン　ヒメヤママユ　ウスタビガ　ヤマトニジュウシトリバガ　ゴジュウカラやカラ類、一部で混群

アキアカネ（体色は成熟した赤）　ヒメツチハンミョウ　トホシカメムシほか（カメムシ多数）　クリタケほか　ツグミの群れ（冬鳥の到来）

秋景

開花：センブリ　ヤブマメ　シデシャジン　タニソバ　ナギナタコウジュ　岩手山初冠雪　網張でも初雪

結実：コマユミ　ヤマブドウ　ツリバナ　ナナカマド　アキグミ　ツルウメモドキ　オオカメノキ　キハダ

紅葉：　三ッ石山ピーク中旬～下旬　ハウチワカエデ紅葉　イタヤカエデ黄葉　網張の森ピーク　落葉進む

虫の音が秋の深まりを感じさせる時分です。コオロギの仲間は２枚の前翅をこすり合わせ、バッタの仲間は前翅と後脚をこすって音を出します。気温の低下とともに鳴き声のテンポが落ちて、音の高さも変化するそうです。

参考図書：高嶋清明『鳴く虫の科学』

森の掲示板

休暇村に近い園路のキハダは雌雄仲良く並んでいます。キハダは雌雄異株で、実をつけるのは雌の個体です。今年は実のつきが今一つなので、大陸から飛来するツグミたちも、ちょっと拍子抜けするかもしれません。

にぎやかな鳴き交わしの後、コムクドリの群れを見かけました。夏鳥たちは残暑に負けず南下を始めています。セミたちが徐々に落ち着くと、待ってましたとゴジュウカラなど留鳥が主張を始めます。冬鳥がそこに加わるのはもう少し先になりそうです。

アミハリ・バーズ　Vol. 52

カワラヒワ

科名：アトリ科
全長：約 14.5cm
生態：留鳥及び漂鳥
　　一部地域では冬鳥
分布：全国

リピーターのＳ氏が拾った野鳥の羽を見せてくれました。黄色が入っていて、カワラヒワの初列風切羽のように見えます。夏から秋へと移ろう中、換羽で落とした羽だったのでしょうか。

飛び立った時の鮮やかな黄色が鮮烈ですが、それ以外はオリーブ色や黒褐色といった、周囲にとけ込み易い地味な体色をしています（英名は“Oriental Greenfinch”）。

繁殖期以外は群れで行動し、寒い地域から暖地へ移動します。ヒマワリの種が大好きで、丈夫なくちばしで器用に割って食べます。庭や農耕地など、人の生活圏もうまく利用する小さな隣人です。

鳴き声

キリリ、コロロ
チョンチョンチョン
ジューイ

「山小屋に憩う」（3）

不動平避難小屋の 39 年　阿部ひろあき

撮影：平成９年９月

山仲間たちの協力

「岩手山に登れるうちは俺が管理する」と宣言して始まった二代目小屋。昭和 59 年 4 月から平成 17 年 6 月の解体着手までの約 22 年間は、山仲間たちの支援で守り抜くことが出来た。完全なボランティア作業だった。

特に協力要請して管理チームを組織した訳ではない。したがって、当番を決めたのでもない。春の小屋開きと晩秋の小屋閉めは日程を決めて関係者に連絡したが、それ以外は全くのフリー。岩手山に登るだけでもひと苦労なのに、それぞれが登山した際に、自主的に清掃等管理作業を行ってくれた。『ふるさとの山』への篤い想いがそうさせたのだろう。

修理から始まった小屋管理

まさか、新築小屋の最初の管理が修理とは予想外だった。雪解け後に雪吹込みの原因が判明した。中段の冬期出入口扉２ヶ所中１ヶ所が破損していたためだった。冬期利用者が雪を噛んだ扉を無理に閉めようとして破損したらしい。扉の枠は木製で木目に沿ってみごとに割れて扉が外れていた（写真 11）。とりあえず早急に塞がねばならない。応急処置をした。新しい小屋なのに不格好な応急修理しか出来ないことが悲しかった。その後、施設設置者（県）に補修して頂いたが‥。

（写真 11）冬期出入口扉破損状況

（写真 12）窓の補修作業

同様の破損は以後も数回続いた。

加えて、金網入りガラスの破損も生じた。これには持参のゴミ処理用ビニール袋で代用する方法を採った（写真 12）。袋の両側に桟木を入れて巻込み、幅を調整して桟木を木枠に打ち付けた。しかし長持ちしない。その度に新しいビニール袋に取り替えた。これは全扉に波及し、二代目小屋解体時まで続いた。

安普請の成果？

乏しい予算のため、簡素な造りに起因する各種の不都合が頻発。冬期出入口扉破損等による雪の大量吹込みのほかに、西側小窓や空石積み側壁の隙間からの雪吹込み（写真 13）。初夏の頃、断熱材がないため屋根裏に結露し、滴下して床を濡らし、腐朽が進むなど（写真 14）。これらの処理に仲間たちと毎年のように汗を流した。このように手の掛かる山小屋だからこそ、仲間たちが馳せ参じてくれたに違いない。それ故、「俺たちの小屋」のような愛着心も芽生え、仲間意識が強くなった気がする。

（写真 13）小屋内への雪吹込み状況

（写真 14）濡れた床拭き掃除

小屋開きと小屋閉め作業

春先の除雪は「小屋開き」時の最重点課題だった。特に夏期出入口は構造上、屋根の雪が落下堆積するため、一部氷が混じる悪雪となり、排除に苦労を強いられた。それでも、春の大型連休に岩手山に登る人たちが利用し易いようにと、皆で頑張った。たまたま居合わせた大学生グループが手伝ってくれたこともある（写真 15）。

（写真 15）夏期出入口除雪を終えて

不動平～山頂周辺の管理作業

小屋開きや小屋閉め時には協力者が多くなるので、不動平から山頂一帯の管理等にも取り組んだ。春先のロープ張りやお鉢上に倒れている三十三観音石像起こし（写真 16）、山頂の整理整頓、奥宮前石灯篭の立て直し等々。力仕事も多かったが、みんな若かった。張り切って取り組んだ。

お鉢の三十三観音石像は、平成 28 年以降は倒れているものが少なくなった。誰かが立て直してくれるようだ。また、小屋閉め時のロープ処理、特に吹雪の折などは凍結したロープの取外しなどに手間取った。（次号につづく）

（写真 16）お鉢の石像起こし

自然観察会報告

岩手山山麓の自然を堪能！

国立公園で楽しむ親子の自然体験

7/29「よるの森をのぞいてみよう！ コウモリ調査体験と昆虫ライトトラップ」

バットディテクターを使ってコウモリの出す超音波を探す調査や、コウモリの捕獲調査のハープトラップの見学、灯火に集まる昆虫観察を楽しみました。総勢 33 名

8/27「草花が遊び道具に変身！ 草笛＆葉っぱのたたき染め体験」

稲船笛、オオイタドリの茎笛やリード笛作りに挑戦。葉っぱのたたき染めでオリジナル絵葉書やハンカチも作りました。総勢 20 名

8/5「夏休み！親子で楽しむ だて先生の昆虫観察＆クラフト体験」

じっくり昆虫を観察しクラフト作りにも挑戦。アリが群がる幼虫の観察では講師から「命が繋がっている。無駄なものは１つもない」という話もありました。総勢 19 名

9/10「おかわりしたくなる！ 炭火炊飯体験」

剪定ばさみで枝を切るのもマッチで火をつけるのも初めての体験！自分で火をおこし、土鍋で美味しいご飯が炊けました。ウインナーの串も箸もオオバクロモジの枝での自作です。総勢 23 名

●依頼行事●

たくさんの方に国立公園を楽しんでいただけるよう依頼行事にも取り組んでいます。

8/2 日独スポーツ少年団同時交流受入事業

シュレスヴィヒ・ホルシュタイン地方の学生６名、通訳１名、事務局３名参加

8/4 岩手県市町村職員健康福利機構 夏休み親子プラン「網張の森散策＆たき火体験」

12 家族 40 名参加

9/16 日本教育公務員弘済会「網張の森散策」

秋めいてきた森の散策と館内解説 ９名参加

9/15・9/20・9/22 滝沢市立滝沢第二小学校「岩手山と自然の恵み」

５年生３クラス参加

（画像提供：岩手山地区パークボランティア）

インフォメーション

10/14(土)『鞍掛山麓でキノコと親しくなろう』
9:30～12:00 たきざわ自然情報センター集合
講師：原 勝雄 氏（岩手菌類研究同好会）
定員：15名 ※要事前予約
参加料：大人500円 小学生以下300円
共催：滝沢市・滝沢市山岳協会・
（一社）滝沢市観光物産協会

10/22(日)『紅葉の森さんぽ＆たき火体験』
10:00～13:30 網張ビジターセンター集合
定員：10名 ※要事前予約
参加料：大人500円 小学生300円

11/5(日) 森のクラフト体験 『小刀でスプーンを作ろう！』
9:30～11:30 網張ビジターセンター集合
定員：7名 ※要事前予約
参加料：一人500円（材料費込）

網張ビジターセンターだけで入手できる！

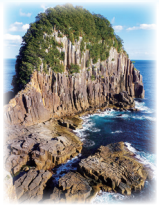
「三ツ石山登山バッジ」完成しました！
好評発売中 定価 600 円

－現在開催中のビジターセンター企画展－

9月1日(金)～10月31日(火)

－多賀谷 真吾 写真展－

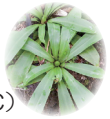
「海と山のあいだ ～東紀州のリアス海岸風景」



吉野熊野国立公園とその周辺、特にも東紀州と呼ばれる地域には、複雑な地形のリアス海岸と、その後背に大峰山や大台ヶ原といった山岳が広がっています。本展では、東紀州の海と山のハーモニーをお楽しみください。 ―出展者の言葉より―

モモンガのつぶやき

９月のミニ企画「ちょっと森林浴散歩」での出来事。湯ノ沢橋の手前でご参加の方から「以前この辺りでショウジョウバカマを観たと思うんですが」と声がありました。花の時期にお母さまと観賞されたとのこと。春先、いち早く鮮やかなピンクで森を彩る花なので、花の時期は大いに注目し、花後更に花茎を伸ばし色褪せた花が残っている頃までは観ていましたが、他の時期はいつも素通り。「どうなっているだろう」といつも咲く場所を一緒に探してみると、きれいな緑の葉の姿。夏はどうだったのだろう。あの伸びた花茎はいつ姿を消したのだろう。緑の実の姿も美しいのだとか。年間を通して観ないと分からないのだと実感しました。（C）



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 7月 1，419人 ◆ 8月 1，895人
朝９時のビジターセンター平均気温 ◆ 7月 16.9℃ ◆ 8月 19.8℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2（網張温泉）
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL http://amihari17.ec-net.jp
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp
開館 夏期 （４月から 10 月末まで）休館日なし９時～17 時